

執筆者紹介

阿久澤麻理子（あくざわ・まりこ）

1963年生。大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程修了／博士（人間科学）

現在 大阪市立大学大学院創造都市研究科教授

●主要業績●

『フィリピンの人権教育——ポスト冷戦期における国家・市民社会・国際人権レジームの役割と関係性の変化を軸として』（解放出版社、2006年）

『人権ってなに？ Q&A』（解放出版社、2006年）

●人権とは？●

人間として誰もが生まれながらに持っている権利。人間が、歴史のなかで自らの存在を深く問い、よりよく生きるためにつくりあげ、勝ちとってきたもの。その概念、それをよりよく実現するシステムの発展は私たちの責任でもある。

* 石崎 学（いしざき・まなぶ）

1968年生。立命館大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学

現在 龍谷大学大学院法務研究科教授

●主要業績●

『人権の変遷』（日本評論社、2007年）

『リアル憲法学』（法律文化社、2009年／共編著）

●人権とは？●

苦境に立たされた人が思い描くささやかな願望でしょうか。

榎澤 幸広（えのさわ・ゆきひろ）

1973年生。専修大学大学院法学研究科博士後期課程公法学専攻修了

現在 名古屋学院大学経済学部専任講師

●主要業績●

『地方自治法下の村民総会の具体的運営と問題点——八丈小島・宇津木村の事例から』名古屋学院大学論集（社会科学篇）47巻3号（2011年）

「公職選挙法8条への系譜と問題点——青ヶ島の事例をきっかけとして」名古屋学
院大学論集（社会科学篇）47巻3号（2011年）

●人権とは？●

人権とはあらゆる背景を背負った人びとが等しく持つもの……。でも現実には憲法
ですら中央や多数派の視点が多くとりこまれています。ならば、先住民や離島の
人びとの視点は？……この現実を変えるには、さまざまな人びとの“もう一つの
声（彼らの憲法観や人権観）”を聞き、真剣に考え、法に示される人権を再構成し
ていくことではないでしょうか。

* 遠藤比呂通（えんどう・ひろみち）

1960年生。東京大学法学部第一類卒業

現在 弁護士

●主要業績●

『不平等の謎——憲法のテオリアとプラクシス』（法律文化社、2010年）

『人権という幻——対話と尊厳の憲法学』（勁草書房、2011年）

●人権とは？●

肝心なときに沈黙してしまうにもかかわらず、あきらめることができないもの、
それが人権です。「人権の定義」「人権の語り」自体が、人権を沈黙させる構造悪
であることが、事態をより複雑にしています。そこで、本書では、人権とよばれる
事象の深みにある「苦しみ」をみつめ、それに参与することで、人権の正体に
迫ろうとしています。

遠藤 美奈（えんどう・みな）

1965年生。早稲田大学大学院政治学研究科博士後期課程満期退学

現在 西南学院大学法学部教授

●主要業績●

「憲法に25条がおかれたことの意味——生存権に関する今日的考察」季刊社会保
障研究41巻4号（2006年）

「福祉国家の憲法枠組み——フィンランドにおける社会保障の権利・平等・デモク
ラシー」憲法問題20号（2009年）

●人権とは？●

「不幸があまり大きすぎると、人間は同情すらしてもらえない。嫌悪され、おそろ
しがられ、軽蔑される」（ヴェイユ）。にもかかわらずそのひとを「人間」として

遇することを命じ、またそうして私たち自身の尊厳を問うもの。それが「人権」
ではないでしょうか。

金 尚均（きむ・さんぎゅん）

1967年生。立命館大学大学院法学研究科博士後期課程中退

現在 龍谷大学大学院法務研究科教授

●主要業績●

『危険社会と刑法——現代社会における刑法の機能と限界』（成文堂、2001年）

『ドラッグの刑事規制——薬物問題への新たな法的アプローチ』（日本評論社、
2009年）

●人権とは？●

すべての人が享受しているのが人権。この言説は「幻」であってはならず、常に
過去から回復し、かつ将来を開くための「展望」でなければならない。

熊本 理抄（くまもと・りさ）

1972年生。日本福祉大学大学院国際社会開発研究科博士後期課程満期退学

現在 近畿大学人権問題研究所准教授

●主要業績●

「被差別部落と人権」『講座 人権論の再定位4 人権の実現』（法律文化社、2010年）
「部落問題・部落解放運動から考える『排除』と『差別』」『現代の「女人禁制」
——性差別の根源を探る』（解放出版社、2011年）

●人権とは？●

人権とは、人が人として存在するための権利であり、「人」に含まれなかった人た
ちが、長い闘争を経て一つずつ認められてきたものです。その歴史のなかで、葛
藤や衝突があり、試行錯誤し、前進や後退をくり返しながらも闘い続け、変化し
発展し拡大してきたものです。獲得していく闘いとプロセスが重要だと考えてい
ます。

志田 陽子（しだ・ようこ）

1961年生。早稲田大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学／博士（法学）

現在 武蔵野美術大学造形学部教授

●主要業績●

『文化戦争と憲法理論——アイデンティティの相剋と模索』（法律文化社、2006年）

『新版 表現活動と法』（武蔵野美術大学出版局、2009年）

●人権とは？●

人類の歴史の地層断面図。人権各々の内容のなかに、「その保障がなかったために悲惨な状況を甘受せざるをえなかった人びと」の現実の歴史と、「それを再び起こしたくない」と考える人間の良心的反省の精神史が詰まっています。もちろん、その地層形成は、ときに崩れ、修正を要し、現在も進行中……。

若尾 典子（わかお・のりこ）

1949年生。名古屋大学大学院法学研究科博士前期課程修了

現在 佛敎大学社会福祉学部教授

●主要業績●

『女性の身体と人権——性的自己決定権への歩み』（学陽書房、2005年）

『ジェンダーの憲法学』（家族社、2005年）

●人権とは？●

自分の身体・性を、どう生きるのか。誰も、ほんとうのところは、わからない。自分で自分に問いかけ、さしあたりの答えをだしつつ生きている。だから、問題を抱える女性・少女は「私」であり、彼女らとつながることが人権を学ぶことだと思う。

（以上、50音順／＊は編者）